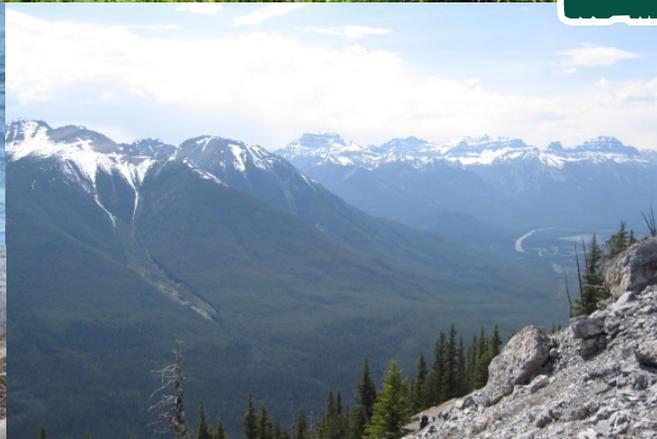




環境省
Ministry of the Environment

生きものとの 出会いの旅を創る

国内・海外 20の事例



目 次

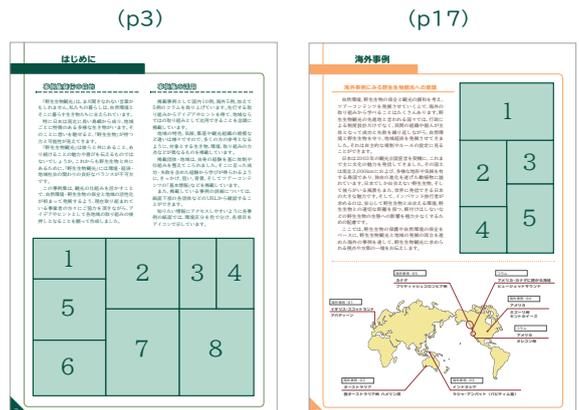
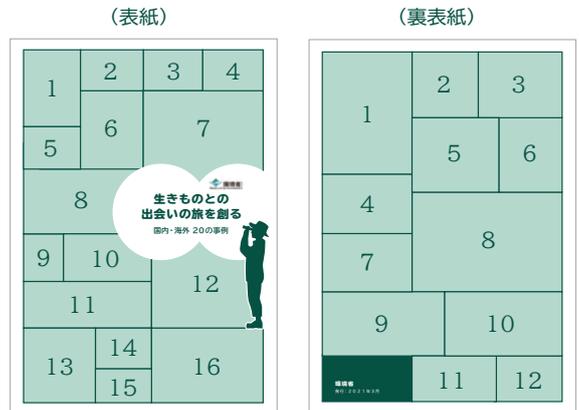
■ 目次		p 1
■ はじめに (事例集発行の目的 / 事例集の活用)		p 3
■ 国内事例		p 4
事例 1	海 (ウミガメ、ザトウクジラ) 絶滅危惧種アオウミガメの保護を基にした学習ツアー [東京都 小笠原諸島・父島] 認定NPO法人 エバーラスティングネイチャー(小笠原海洋センター)	p 4
事例 2	海 (イルカ) ~島民とイルカとの上手な共生関係~ 地域の観察ルールで楽しむイルカウォッチング [東京都 御蔵島] 海豚人丸	p 5
●コラム	アメリカ オレゴン州:コククジラのウォッチングガイドライン アメリカとカナダの国境海域に棲む世界一汚染されたシャチの群れ	p 6
事例 3	汽水・河川 (湿地の鳥類) ~ マングローブ林と田芋畑、水田域などの湿地を地域振興に活かす ~ バードウォッチングを中心とした自然体験による観光誘致の展開 [沖縄県 金武町] 合同会社 沖縄ネイチャーオフィス	p 7
事例 4	広域 (生態系そのものを学ぶ) 国立公園における野生動物観光のあり方 ~ 共生と理解 ~ [北海道(道東)、沖縄県(西表島)] 株式会社 Wondertrunk&co.	p 8
事例 5	里地里山 (シカ、ヤマメ、イワナ) 住民によるNPO法人が核となり、豊かな自然と文化を次世代へ [山梨県 小菅村] NPO法人 多摩源流こすげ	p 9
事例 6	里地里山 (ツキノワグマ、ムササビ、野鳥など) ~ 観光・別荘地の魅力は自然と野生生物 ~ 観光を支えるツキノワグマ保護管理と学習コンテンツ [長野県 軽井沢町] 株式会社 ピッキオ	p 10
●コラム	野生動物観光と持続可能な開発目標(SDGs)	p 11
事例 7	高山 (高山帯の生き物、ライチョウ) 山のガイドによる高山帯での新しい野生動物観光 ~ ライチョウ観察ツアー ~ [日本アルプス山域] 一般社団法人 日本アルプスガイドセンター	p 12
事例 8	森 (コケ植物、シダ植物、キノコ) ~ 持続的な組織経営を目指す ~ インバウンド旅行者を見据えた人材育成と多様な事業展開 [青森県 十和田市] NPO法人 奥入瀬自然観光資源研究会 / 株式会社 ESARIO	p 13
事例 9	森 (シカ、カモシカ、ムササビ、コウモリなど) 自らの発見、感動を大切に した宿泊学舎を活かした野生動物との時間を過ごすツアー [山梨県 早川町] 南アルプス生態邑(株式会社 生態計画研究所)	p 14
事例 10	森 (夜行性希少生物(哺乳類・両生類・爬虫類)) 産・官・民の協力で作る 野生動物観光の地域ルールとその実践 [鹿児島県 奄美大島] 観光ネットワーク奄美	p 15
●コラム	鳥取県 日南市:インバウンド旅行者向けツアーで天然記念物オオサンショウウオの保全を推進 北海道 札幌市:インバウンド旅行者にも評価される動物園展示を目指して ~科学的知見で地域へ誘う~	p 16

目次

■ 海外事例	p 17
海外事例にみる野生生物観光への意識	p 17
事例1 海 (イルカ、磯の生き物) 観察はイルカに優しく陸上から～海の生態系とその保全を学ぶ～ [イギリス・スコットランド(アバディーン)] The Royal Society for the Protection of Birds(RSPB)	p 18
事例2 海 (エイ) 餌付けを止めて自然なエイの観察観光へシフト [オーストラリア 西オーストラリア州 ハメルン湾] Hamelin Bay Holiday Park (海洋公園)	p 19
●コラム：～海外ではすでに当たり前～ 自然と生き物に最大限配慮した観光ツアー	p 19
事例3 海 (サンゴ、海洋生物) ダイビングエコロジから始まる海の再生と雇用の創出 [インドネシア ラジャ・アンパット(バビティム島)] Misool Eco Resort	p 20
事例4 広域 (野鳥(猛禽類)) 野鳥保護施設による「傷病鳥」から学ぶ自然環境の治療 [アメリカ ミズーリ州 セントルイーズ] The World Bird Sanctuary(NGO)	p 21
事例5 森 (ハイログマ(グリズリーベア)) 環境に配慮した安心感とともに非日常の体験を提供 [カナダ ブリティッシュコロンビア州] Great Bear Tourism / Comercial Bear Viewing Association (CBVA)	p 22
■ 野生生物観光の関係法令とその活用	p 23

【写真協力】

- ・海豚人丸：裏表紙10,p5(東京都御蔵島,イルカ)
- ・合同会社 沖縄ネイチャーオフィス：裏表紙_No.6,p7(沖縄県金武町,セイタカシギ)/裏表紙_No.9(沖縄県金武町)
- ・株式会社 Wondertrunk & co.：表紙_No.6,p8(西表島,カンムリワシ) / 裏表紙_No.3,p8(北海道 道東,オオハクチョウ)
- ・NPO法人 多摩源流こすげ：裏表紙_No.7,p9(山梨県小菅村)
- ・株式会社 ビッキオ：裏表紙_No.4(長野県軽井沢町[浅間山])/p10(長野県軽井沢町,ツキノワグマ)
- ・一般社団法人 日本アルプスガイドセンター：表紙_No1(日本アルプス山域)
- ・NPO法人 奥入瀬自然観光資源研究会：裏表紙_No.8,p13(青森県十和田市[奥入瀬渓谷])
- ・株式会社 南アルプス生態邑：裏表紙_No.1,p3_No.5,p14(山梨県早川町,カモシカ)/裏表紙_No.5,p3_No.6,p14(山梨県早川町)
- ・観光ネットワーク：p15(鹿児島県奄美市[奄美大島_金作原])
- ・ジェシカ・ワン：表紙_No.11(スコットランド アバディーンハーバー)
- ・株式会社 地域環境計画：表紙_No.2(北海道,キタキツネ)/表紙_No.3(大分県竹田市,アキアカネ)/表紙_No.4(滋賀県甲賀市,アナグマ)/表紙_No.5(鹿児島県奄美市[奄美大島],アマミシカワガエル)/表紙_No.7((鹿児島県奄美市[奄美大島],ヒカゲヘゴ)/表紙_No.8(沖縄県本島北部[やんばる])/表紙_No.9(スコットランド,カツオドリ)/表紙_No.10(香川県小豆島,カモメ)/表紙_No.12((鹿児島県奄美市[奄美大島])/表紙_No.13(スコットランド,ウミガラス)/表紙_No.14,p18(スコットランド アバディーン,バンドウイルカ)/表紙_No.15,p17_3(カナダ,キンイロヅリス)/表紙_No.16(カナダ[カナディアンロッキー山脈])/裏表紙_No.2(長野県[木曾駒ヶ岳],チングルマ)/裏表紙_No.11(沖縄県本島北部[やんばる])/裏表紙_No.12,p4(東京都小笠原村,アオウミガメ)/p3_No.1(北海道[大雪山国立公園])/p3_No.2(北海道[雨竜沼湿原],ミズバショウ)/p3_No.3(大阪府能勢町,アオバズク)/p3_No.4(沖縄県本島北部[やんばる],リュウキュウハグロンボ)/p3_No.7(沖縄県,マングローブ(ヤエヤマヒルギ))/p3_No.8(沖縄県本島北部[やんばる])/p17_No.1(カナダ[カナディアンロッキー])/p17_No.2(マレーシアランカウイ島)/p17_No.4(スコットランド,ユリカモメ)/p17_No.5(マレーシア コタキナル[キャノピー・ウォーク])/p18(スコットランド アバディーンハーバー)



はじめに

事例集発行の目的

「野生生物観光」は、まだ聞きなれない言葉かもしれませんが。私たちの暮らしは、自然環境とそこに暮らす生き物たちに支えられています。

特に日本は南北に長い島嶼から成り、地域ごとに特徴のある多様な生き物がいます。そのことに想いを馳せると、「野生生物」が持つ力と可能性が見えてきます。

「野生生物観光」は彼らと共にあること、あり続けることの魅力や喜びを伝えるものではないでしょうか。これからも野生生物と共にあるために、「野生生物観光」には環境・経済・地域社会の関わりのできる良好なバランスが不可欠です。

この事例集は、観光の仕組みを活かすことで、自然環境・野生生物の保全と地域の活性化が相まって発展するよう、現在取り組まれている事業者の方々にご協力を頂きながら、アイデアやヒントとして各地域の取り組みの後押しとなることを願って作成しました。

事例集の活用

掲載事例として国内10例、海外5例、加えて5例のコラムを取り上げています。先行する取り組みからアイデアやヒントを得て、地域ならではの取り組みとして応用できることを念頭に掲載しています。

地域の特色、気候、集落や観光組織の規模など違いは様々ですので、多くの方の参考となるように、対象とする生き物、環境、取り組みの力点などが異なるものを掲載しています。

掲載団体・地域は、自身の経験を基に体制や仕組みを整えてこられました。そこに至った成功・失敗を含めた経験から学びが得られるように、きっかけ、狙い、背景、そしてツアーコンテンツの「基本情報」などを掲載しています。

また、掲載している事例の詳細については、紙面下部の各団体などのURLから確認することができます。

知りたい情報にアクセスしやすいように各事例の紙面では、環境区分を色で分け、各項目をアイコンで示しています。





- 01

[東京都 小笠原諸島・父島] 認定NPO法人 エバーラスティングネイチャー(小笠原海洋センター)
絶滅危惧種アオウミガメの保護を基にした学習ツアー

！ 注目ポイント

- ・野生生物と人の営みが持続できる社会づくりを目指して海洋生物の保護活動を展開
- ・島の観光資源であり食材でもあるアオウミガメ(絶滅危惧Ⅱ類)の保護を主軸に利活用にも触れたコンテンツを提供
- ・海洋センターは博物展示だけでなく、ウミガメの生態や保護活動を紹介。オリジナルグッズや学習冊子、研究報などを販売し、観光施設としても機能
- ・地域の学校教育や修学旅行の積極的な受け入れだけでなく、地域住民にも学習体験の場を提供

📍 地域の情報

東京から約1000km南の太平洋上にある海洋島。そこに生息する生き物たちは独自の進化を遂げたものが多く、特徴的な生態系が世界自然遺産となっています。小笠原諸島では複数の島々でアオウミガメの産卵地が確認されています。



📄 取り組みの背景と概要



- ・小笠原海洋センターは1982年に設立され、管理運営主体が替わりながらも、センターの目的は変わらず、アオウミガメとザトウクジラの保護、研究に注力し、現在に至ります。
- ・運営する団体は、海洋保全の面から「野生生物と人の営みが持続できる社会づくり」を進めており、スタッフの多くは海洋生物の専門家です。
- ・人が暮らすエリアに近い海岸では、人工的な光によって、ふ化した子ガメが海を目指すことを妨げてしまいます。海に帰れずに死んでしまう子ガメを減らすために卵の保護を行い、人工ふ化させた子ガメを暗い海岸で放流することが、一つの対策となります。これまでの努力もあって、小笠原のアオウミガメは、30年間で10倍に増えています。
- ・これらの成果は海外に発信するだけでなく、地域住民にも伝えていきます。小さな子供から小中学生に至るまで、地域の子供たちは総合学習などを通じてウミガメについて学びます。また、島外からの学習旅行の受け入れも盛んです。ウミガメが窮地にあることが広く知られるだけでなく、センターの収益増にもなり、ウミガメ保護の良いサイクルが生まれています。

➡ 団体などの詳細はこちら

【小笠原海洋センター】 <http://bonin-ocean.net>
 【エバーラスティングネイチャー】
<https://www.elna.or.jp/>
 【小笠原ルールブック】
https://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/ecotourism_index/rulebook/
 【東京都小笠原支庁 観光客の方へ】
<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/07ogasawara/visitor/index.html>

🔍 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- ・アオウミガメの生態と保護活動を学ぶ「ウミガメ教室」
 (2時間 大人3,300円、
 3時間 大人5,500円)
- ・短期飼育した子ガメを放流する放流体験(7,700円)
- ・クジラ教室
 (室内、1時間 大人2,200円)
 など



⚖️ 環境保全と経済の両立



- ・観光資源であるザトウクジラについても個体識別することで、年齢や成長、社会構成、出産間隔、生息数などを調査しています。
- ・アオウミガメは、地域の食材であり、観光資源です。かつては大きく減少しましたが、保護活動により、その生息数は増加。小笠原名物であるウミガメ漁とウミガメ料理の維持にもつながっています。東京都は毎年のウミガメの漁獲量を制限しており、その権利は承認された漁師に限られています。
- ・また、小笠原村は観光に関するルールを定めています。

【観光に関するルール】

- ・産卵に来るウミガメへの対応として、ライトは足元だけ、出会ったら動かない。
- ・目撃情報を海洋センターに伝える。
- ・産卵巣に近づかないこと。